

事業完了報告書（実行団体）

| | | |
|----------|---|-------------|
| 事業名: | 「子ども・若者オフィス」の開設 | Version 3.2 |
| 資金分配団体名: | 特定非営利活動法人ACOPA | 目付: |
| 実行団体名: | 株式会社新閃力 | 2022年2月28日 |
| 実施時期: | 2021年3月～2022年2月 | |
| 事業対象地域: | 千葉県 | |
| 事業対象者: | 学力の問題ではなく、現在の日本の教育制度に馴染めないが故に、学校に居場所や価値観を見い出すことが出来ず、または自分の力を社会で発揮したいと考える子どもや若者（小学生～大学生） | |

I. 事業概要

| | |
|--------|--|
| 事業実施概要 | <p>本事業では、サテライトオフィスTristに子どもや若者が学ぶ「子ども・若者オフィス」を併設し、不登校児を対象として運用することで、子どもたち自身が学校に戻りたい、もう一度勉強したいと思えるような場を提供します。子どもたちに必要なのは「生きる力」を学ぶことであり、学校での勉強の延長線上に「生きる力」が存在するにも関わらず、ほとんどの子どもたちがそれに気づいていません。仕事場の近くに教育環境を整えることで、大人が日常的に子どもたちに関わり、また大人自身が働く・学ぶ姿勢を子どもたちに直接見せることで、子どもたちが本当の意味での「生きる力」を学ぶために自ら学校に戻ることをアシストします。</p> |
|--------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|---|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | <p>【課題の設定】コロナで多くの学びの機会、体験の機会が失われました。不登校の子も全国的に増えました。本来なら、運動会や文化祭、部活動で同期や先輩後輩関係の中で解消していくべき思春期の悩みを自分一人で抱えることになり、学校の先生も同様の危機感を持っています。長引くコロナ禍で、当初課題設定は深刻さを増していったように思います。この認識のもと、子ども若者オフィスでは違う学校、違う学年、多種多様な大人たちとのコミュニケーションをとるようなプロジェクトを積極的に行い、地域の子も子どもたちが生きる力を育むことに貢献できたと考えます。</p> <p>【事業の設計】コロナ禍でしたので、参加人数は当初の予定よりも少なくなる回もありましたが、相談会やイベントは一度も減らすことなく行ってきました。実際、「少ないから来やすかった」という子どもたちの声もあり、少人数で進めることができたことでのメリットもありました。また、公教育と連携して、不登校の子たちが社会と繋がる機会を作る取り組みも行うことができました。</p> <p>【プロセスの変化】オフィスには常時働いている大人もいるので「密にならないこと」「感染防止」に関しては常に気を張っていました。自宅療養になっている子どもたちともバーチャルオフィスを通してコミュニケーションを取り、「コミュニケーションを止めない」ことをプロセスでは意識しておりました。</p> |
|-------------------|---|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|--------|------------|--|---------------------------------------|---|--|---|
| 子ども・学生 | 居場所の不足 | 流山市のサテライトオフィスTrist Airportに、「子ども・若者オフィス」を併設 | 「子ども・若者オフィス」の実際の開設 | Trist Airportに実際に「子ども・若者オフィス」を併設 | 2021年4月開設完了 | 子どもたちが大学生と一緒に「行きたい場所」「落ち着ける場所」「コミュニケーションを取りやすい場所」作りを行うことができた。大人も子どももみんなで組み立てなどを行うことで愛着を持たれた。 |
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | 仕事や今後の人生に役立つ授業や専門家による相談の機会の提供 | 専門家による授業・相談会の実施回数 | 週1回（年48回）の専門家による授業及び相談会の開催 | 計画通り週1回（年48回）実施完了 | 多様な大人たちが多様なテーマで月に4回相談会や授業を行った。学校での学びが社会にどう活かしているかを大人も子どもと一緒に考える授業を実施したおかげで、一度も参加者不在で中止されることなく実施することができた。 |
| 子ども・学生 | 居場所の不足 | 「子ども・若者オフィス」でのイベント及びワークショップの開催や、バーチャルオフィスツールの活用など、オフライン・オンラインともに積極的なコミュニケーションが可能となる環境の整備 | イベント及びワークショップの実施回数とバーチャルオフィスツールの導入・利用 | 月1回（年12回）程度のイベント・ワークショップの開催とバーチャルオフィス20名用の導入・利用 | 計画通り月1回（年12回）実施完了 ※主催および参加した子どもたちの総数は延べ200人程度 | 七夕、映画観賞会、お泊り会、夏祭り、5周年記念、ボードゲーム大会など子どもたちが主体となるイベントも12回実施ができた。失敗は大歓迎を合言葉にイベントごとにリーダーが変わり、色んな子が主体的に動く面白さを体験することができた。 |
| 子ども・学生 | 居場所の不足 | 事業対象の子ども・若者の受け入れ | 常時5人程度の受け入れ | 常時5～10人程度のオフィス利用 | 計画通り1日あたり5人～10人の受け入れができた環境を整えていた。実際の利用人数は1年間で50人程度 | イベントやプロジェクトがない日も、ただオンライン授業を受けに来て帰る子や少しだけ家から外に出て休んで帰る子どもも利用してくれた。子どもたちにとって第三の居場所になってきつつあるのだと感じている。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|---|
| 事業実施以降に目標とする状況 | <p>本事業では、流山市で少人数にて「子ども・若者オフィス」の展開にチャレンジしますが、本事業を成功事例とし、自治体や学校に働きかけることで全国展開する計画です。「子ども・若者オフィス」は、決して不登校児の逃げ場所ではなく、親や地域が協力し、子どもたちが勉強の価値、学校の意義に自ら気づくことにより軌道修正が行えるような、子どもたちと家庭・学校・地域との潤滑油となるような場として全国的に展開していきます。</p> |
| 考察等 | <p>私たちはワークショップや相談会やイベントを実施してきましたが、一個一個の成功をゴールにしてきたわけではなく、公教育との連携や不登校の子たちの単位の取得方法の新しい形を作っていくことを目指して来ました。そのために、公教育や議員さん達とも協力しあい、情報共有をしてきました。実際、クリスマス会のリーダーの男の子は3年以上不登校状態でしたが、今年度の3学期から学校に行き始めました。コロナの影響及びGIGAスクールの推進によって不登校の考え方やルールは現在過渡期にあると考えています。様々な学び方を用意し、個別最適な学びを進める上で、今回の取り組みは少しでも「新しい学び方」の先行事例になったのではないかと考えます。1年でルール改正とまでは行きませんが、今後も「地域での多様な学び方」を提示し、子どもたちの成長をしっかりと可視化していく取り組みを行いたいと思っています。</p> |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|--------------------|------|--|
| 「子ども・若者オフィス」の実際の開設 | 計画通り | 3月には開設し、1年間常時開くことができた。 |
| 専門家による授業・相談会の実施 | 計画通り | 生きる力をつけるために、様々な専門家による授業や相談会を実施することができた。 |
| イベント及びワークショップの実施 | 計画通り | 子どもたち主体で、やりたいことを実現するイベントやワークショップを実施できた。 |
| バーチャルオフィスツールの導入・利用 | 計画通り | コロナ禍で集まらない時やイベントができない時、また自宅療養の子などが利用し、活発に使うことができた。 |
| 事業対象の子ども・若者の受け入れ | 計画通り | 小学生からオンラインでなかなか学校に行けない大学生まで常時5人～10人の受け入れができた。しかし、コロナの影響によって人が全く来ない日もあった。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|--|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | 当初は不登校傾向にある子どもたちを想定していましたが、コロナの影響で「学級閉鎖になるオンラインで受けたいが家のWi-Fiが不安定である」「家に高齢者がいて、学校に行くのがリスクなので休んでいる」など様々な事情で子ども・若者オフィスに来る子がいました。 また、中学生や小学高学年の子が子ども若者オフィスで小さい子と遊んだりお世話をしてくれることも想定外でした。学校も年齢も違う子どもたちが様々なチャレンジと一緒に取り組んだり、「自分の自慢披露」の場を作ることで、自信がつき、自己肯定感が強くなった気がします。保護者の方からは「親の知らない一面を知った」「人見知りの娘が人前でバレエを踊るなんて」とプロジェクトを通じた変化や成長に驚いたという声をもらいました。関わってくれたオフィスを利用している大人たちも「自分がどんな仕事をしているのか子どもたちに説明することで再確認できた」「自分のスキルが子どもたちのためになったのが嬉しい」と感想をくれました。今後、本事業を通して出会った他の実行団体と連携を模索しながら、地域での活動の輪を広げていきたいです。 |
|---------------------|--|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|--|
| 課題を取り巻く変化 | 子ども・若者オフィスに通っていた何名かは学校に再度通うことができるようになりました。少し人見知りの子も、自分の意見を主張できるようになりました。まだまだ小さな変化ですが、対象者から芽吹いた変化を大切に育てていきたいと思っています。まだコロナ禍が続いており、子どもたちは疲れと諦めが強くなっているように思います。今後、この期間に失ってしまった「達成感」「チームワーク」などを得られる機会を作っていければと思っています。その際に公教育とも連携しながら、できるだけ多くの子どもたちに貢献できる活動にしていきたいと考えています。 |
|-----------|--|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|---------------|--|
| 流山市議会議員近藤美保議員 | 不登校の子が地域のプロジェクトにことで単位が取れるような仕組みづくりの相談、イベントへの参加 |
| VIVITA | 子どもたちのモノづくり支援、授業実施（七夕、5周年、舞台づくり等） |
| | |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|-----------|-----------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 4,000,320 | 3,998,434 | 100.0% |
| | 管理的経費 | 1,000,000 | 1,044,000 | 104.4% |
| 合計 | | 5,000,320 | 5,042,434 | 100.8% |
| 補足説明 | | なし | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|-------------------------------|---|
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） | 無 |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの | 無 |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例） | HPでのシンボルマークの記載、購入物へのシール貼り付け |
| 4.報告書等 | 活動冊子への記載 https://shinsenryoku.com/2021/03/04/%e5%ad%90%e3%81%a9%e3%82%82%e3%83%bb%e8%8b%a5%e8%80%85%e3%82%aa%e3%83%95%e3%82%a3%e3%82%b9/ |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | 状況 | 内容 |
|---|---------|----|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 全て公開した | |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | |

| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
|---|---|----|
| 1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。 | はい | |
| 5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | |
| 6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8. 内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |

XII. その他

| 自由記述 |
|------|
| 特になし |